

大学生のビブリオエッセー

産経新聞 令和2年(2020年)3月14日(土)

大阪府泉佐野市 車野喜咲 (20)

【世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ】

くさばよしみ編 中川学絵(汐文社)

2020.3.14

この絵本を読んでバイト先
のことがよみがえった。

私はコンビニでアルバイト
をしている。空港が近いため
海外からのお客さまも多い。
その日もマニュアル通りの丁
寧な接客をしていると、美男
美女の外国人カップルがレジ
前にやって来た。

かなり商品を買っておられ
たので一番大きなレジ袋に入
れようとする、男性が「ノ
ー、バッグ!」と言い、ポケ
ットからエコバッグを取り出
して商品を入れ始めた。

「エコバッグは当たり前や
ん!」と思う方もいるかもしれ
ないが、袋が有料だったりポ
イントが付いたりするスーパ
ーならエコバッグを持つ人も
少なくないだろう。しかし、
うちのコンビニはそのような
対策がまだないため、1本の
ペットボトルに袋を欲しが
るお客さまがたくさんいる。

私たちにできることは

この絵本に登場するのは南
米ウルグアイのホセ・ムヒカ
元大統領。2012年、地球
の環境と未来を議論した国連
会議で行き過ぎた消費、浪費
社会を批判し、本当の幸せを
問ひかけ、こう語った。

「貧乏とは少ししか持つて
いないことではなく、無限に
欲があり、いくらあっても満
足しないことです」

絵本にはスピーチが全文掲
載されているが、この言葉を
聞き、日本は貧乏な国だなど
思った。エコバッグを持てば
いいだけなのにわざわざ袋を
もらう。プラごみが問題視さ
れているのに、まだ他人事だ
と思っている人が多いのでは
ないだろうか。

この夏からほとんどのお店
でレジ袋が有料化されるが、
これからはバイト先でも積極
的に声をかけてプラごみ削減
に貢献したいと思う。

※無断転載不可